

久喜市立郷土資料館だより

ふ え ね 笛の音 第3号



現在、第 6 回特別展「懐かしい道具たちー祭り・暮らし・米作りの道具ー」を開催中です。

この特別展では、第 1 会場として郷土資料館展示室 2 で祭りの道具、第 2 会場として青葉小学校内民俗資料展示室で暮らし・米作りの道具を展示しています。会場を 2 つに分けて行う展示は、郷土資料館として初の試みになります。

写真は郷土資料館の祭りの道具の展示風景です。10m を超える中島撫山筆なかじまぶざんのぼりの幟は立てることができず、天井から横に吊るす形で展示をしています。

12 月 27 日(日)までの開催です。詳細は 4 ページの「イベント情報」をご覧ください。

目

次

- 『吾妻鏡』と鷲宮神社の神楽 . . . 2
- 久喜ゆかりの人物 中島撫山② . . . 2
- 名品? 珍品? 収蔵資料紹介③ 土製耳飾り . 3
- ご利用ください 吉田家水塚 . . . 3
- イベント情報 4

神楽の世界 ③ 『吾妻鏡』と鷲宮神社の神楽

鷲宮神社に伝わる鷲宮催馬楽神楽は関東神楽の源流とされ、国指定の重要無形民俗文化財にもなっている、久喜市の誇る伝統芸能です。

鷲宮神社の神楽の最も古い記録は、『吾妻鏡』の記録です。『吾妻鏡』は、鎌倉幕府によって編さんされた歴史書で、治承4年(1180)の源頼朝の挙兵から、文永3年(1266)の6代将軍宗尊親王の将軍解任までの87年間の歴史を記しています。江戸時代には『東鑑』とも表記されました。鷲宮神社も、建久4年(1193)の記録を最古として『吾妻鏡』にたびたび登場しており、源氏や北条氏から信仰を寄せられていたことが知られています。

神楽に関する記録は、建長3年(1251)4月13日と4月22日があります。まず4月13日には、鎌倉幕府の執権北条時頼が鷲宮神社に捧げ物をしようと考え、三嶋大社(静岡県三島市)の神主に使者を依頼したところ、三嶋大社の神事があるとの理由で断られたので、代わりに鶴岡八幡宮(神奈川県鎌倉市)の僧侶である隆弁が使者として出発していったことが記されています。4月22日には、使者として派遣された隆弁が鷲宮神社から戻り、その報告によると、19日に鷲宮神社で御神楽が行われた際、見事なお告げが

あったと記されています。すなわち、今から764年前の建長3年4月19日に行われた神楽が、鷲宮神社で行われた神楽の一番古い記録となります。ただし、この時行われた神楽にはお告げがあるなど、現在の催馬楽神楽とは異なる神楽だと考えられています。現在の催馬楽神楽が成立したのは江戸時代の享保11年(1726)のことです。

『吾妻鏡』の神楽の記録はこの建長3年のみで、江戸時代になるまで、ほかの資料でも確認できていません。この間どのような神楽が行われていたのかは謎となっています。

(郷土資料館学芸員 池尻 篤)



『吾妻鏡(東鑑)』鷲宮神社蔵
江戸時代に出版されたものです。

久喜ゆかりの人物

中島 撫山 ②

文政12年(1829)4月12日~明治44年(1911)6月24日

明治15年(1882)には、次男端蔵が「言揚学舎」を創立し舎主となり、数年後に三男 竦之助に引き継いでいます。この「幸魂教舎」と「言揚学舎」とは同一のものと考えられています。幸魂教舎で学び、後に政治に進出した人としては、宮内翁助(衆議院議員、埼玉県議会議員)、榎本謙次郎(久喜町長)、吉田元輔(県議会議員)、野原吉太郎(久喜町長)、広沢弥三郎(県議会議員)、杉村常右衛門(久喜町長)、奥貫喜市(江面村長)、高木亮助(県議会議員、清久村長)、内田立輔(県議会議員、清久村長)、真田陸三郎(清久村長)、瀬田繁太郎(清久村長)、高橋荘之丞(県議会議員、鷲宮町長)、相沢僖三郎(鷲宮町長)、大熊新平(菖蒲町長)など多くの人々



があげられます。

撫山は、全国各地を遊歴し多くの詩文を残しました。『演孔堂詩文』は撫山の没後、竦之助によってまとめられたものです。また、書をよくし、近隣の神社の幟等を揮毫しました。

明治42年(1909)秋、建物を久喜新町(現久喜中央2丁目)に移した際、「言揚せず」の篇額を書いて玄関に掲げました。

明治44年(1911)6月24日永眠。享年83歳。本町の光明寺に墓があり、市の指定有形文化財となっています。

また、撫山の没後30周年にあたる昭和16年(1941)に、久喜中央2丁目の撫山旧宅跡に六男田人の撰文による「撫山先生終焉之地」碑(市指定有形文化財)が建てられました。

(文化財保護課学芸員 中村 和夫)

名品？珍品？

収蔵資料紹介 ③

土製耳飾り

—JOMONのファッションアイテム—

現代人は「おしゃれ」に夢中です。特に若者は男女を問わずファッション雑誌をチェックしたり、日々センス磨きに余念がありません。素敵なもの、可愛いもの、個性的なもの、そんなファッションを求める気持ちは、いつの時代も変わらないのでしょうか。

久喜市内の縄文時代の遺跡からは、当時のファッションアイテム「土製耳飾り」が出土しています。土製耳飾りは、粘土を成形し、焼き固めて作られたものです。耳たぶに穴をあけ、耳飾りをはめ込むようにして着けられました。現代のピアスのようなもので、主に女性のアクセサリであったと考えられています。縄文時代後期・晩期（約3500～2800年前）の遺跡である地獄田遺跡（じごくだいいせき 菖蒲町おぼやし小林）では、破片も含めて89点もの耳飾りが出土しています。常設展示では、この出土品の一部をご覧になることができます。

さて、地獄田遺跡からは色々なサイズの耳飾りが出土しています。最小のものが直径1.1cm、最大のものが7.9cmで、その間に各種のサイズがあります。耳

飾りは耳たぶを切り開いて装着するため、すぐに大きな耳飾りは着けられません。小さなものから着け始め、人生の節目の際など、徐々に大きいものへと付け替えられていったのではないかと考えられています。

また、耳飾りには透かし彫りのある精巧な作りのものがある一方で、文様のない簡素な作りのものもあります。こうした差などから、縄文時代は平等な社会ではなく階層差があったとする説もありますが、いずれにせよ、縄文の人々はファッションアイテムとして耳飾りを楽しんでいたのではないのでしょうか。

（文化財保護課学芸員 巻島 千明）



地獄田遺跡出土の土製耳飾り

ご利用ください

よしだけみつか 吉田家水塚

水塚とは、洪水から命や財産などを守るために屋敷内に盛り土をして築いた塚、またはその上に築いた建物をいい、ミヅカ、ツカ、クラ等とも呼びます。

吉田家水塚は、栗橋北2丁目で「たたみや金物店」を営んでいた吉田家が建てたもので、旧栗橋宿内に残る商家の水塚としては唯一のものです。利根川の洪水被害に苦しんだ旧栗橋宿の歴史と生活の知恵を今に伝える貴重な建造物として、市の文化財に指定されました（平成20年6月26日指定）。この水塚は、国の利根川堤防強化対策事業に伴い、平成24年3月、栗橋北2丁目から栗橋文化会館隣に移築・復元し、10月から一般公開しています。

水塚の土台である塚は、高さ約2mもあり、洪水時の水位より高くなるよう設計されています。昭和22年（1947）9月16日のカスリーン台風の時には、13段ある階段の11段目まで水没しましたが、これより上は無事だったそうです。塚上には2棟の蔵が立ち並び、手前が江戸時代終り頃建築の「大蔵」、奥が明治37年（1904）建築の「向う蔵」

です。かつて「大蔵」には寝具や食器類が、「向う蔵」には商品が保管され、洪水時には避難施設として利用されました。

現在、水塚の蔵内では、「栗橋地区の水塚と水害」、「栗橋宿の歴史と民俗」、「栗橋地区の航空写真」をテーマにした展示を行っています。市の歴史や水害についての映像資料も公開していますので水塚の見学とあわせて、ぜひご覧ください。

所在地 久喜市伊坂 1562（栗橋文化会館の隣）

電話 0480（85）1111（内線373）

アクセス 栗橋駅西口より徒歩約15分

公開日 木曜日、土曜日、日曜日、
※年末年始及び栗橋文化会館が休館の日は閉館

開館時間 9時～16時30分



イ ベ ン ト 情 報

第6回特別展 懐かしい道具たち

— 祭り・暮らし・米作りの道具 —

平成27年10月17日(土)～12月27日(日)

懐かしい祭り・暮らし・米作りの道具について展示し、久喜の人々がどのような生活を送っていたのか分かりやすく紹介しています。展示図録を600円で頒布中です。

第一会場 祭りの道具

会 場：郷土資料館展示室2

開館時間：10時～18時

休 館 日：月曜日、12/24(木)・25(金)

第二会場

暮らし・米作りの道具

会 場：青葉小学校内民俗資料展示室(久喜市青葉131)

開館時間：10時～16時30分 ※原則木・土・日曜日開館

休 館 日：月・火・水・金曜日、12/24(木)

パネル展 地面の下をのぞいてみよう

～ 埼玉の地下に潜む自然誌～

平成28年1月23日(土)～3月6日(日)

地面の下の土壌、生き物など地下の自然誌を紹介します。埼玉県立川の博物館の出張展示です。

收藏品展 はじめて?なつかしい?ちょっとむかしの道具たち

平成28年1月23日(土)～3月6日(日)

小学校3年生の地域学習に合わせ、明治以降の生活道具を中心に展示します。昔の道具や人々のくらしの移り変わりについて紹介します。

編集後記

『笛の音』第3号をお届けします。分かりやすく市の歴史や文化財を紹介することを心掛けていますがいかがでしょうか。ご感想をぜひ郷土資料館までお寄せください。

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第3号

発行 平成27年(2015)12月11日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷲宮5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

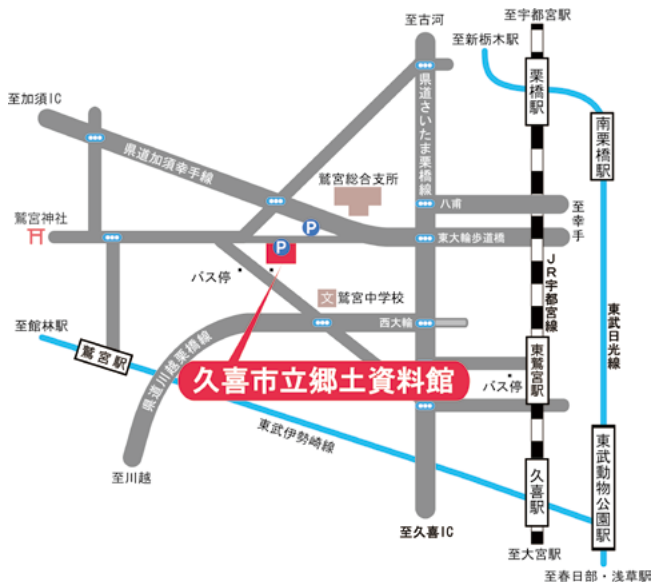
URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日(祝日除く)、年末年始、
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります



電車で

- 東武伊勢崎線 鷲宮駅下車 徒歩15分
- JR宇都宮線 東鷲宮駅下車「加須川口循環」行きバス「図書館入口」下車 徒歩2分

自動車で

- 東北自動車道 加須インターから15分
久喜インターから15分